

まちづくりビジョン策定委員会（第25回）会議録

■ 日 時：平成27年1月9日（金）午後2時30分～午後5時35分

■ 場 所：豆腐懐石 猿ヶ京ホテル 1階 会議室

■ 出席者：

①まちづくりビジョン策定委員会（7／13名）

小林 洋、小野 章一、鈴木 和雄、持谷 美奈子、中島 エリ、渡辺 一彦、
鬼頭 春二

②アドバイザー（1／1名）

平松 庚三

③事務局（まちづくり交流課）（3／3名）

課長 宮崎 育雄、エコパーク推進室 GL 小池 俊弘、主査 大川 志向

■ 配布資料

資料1 各アクションプランのイメージ図

資料1-1 サッカータウン構想（案）

資料1-2 農業法人ホールディングス（案）

資料1-3 行政組織の見直し（案）

資料1-4 高齢者生きがい集合住宅（シルバータウン構想）（案）

■ 会議内容

1 開会

2 議事

（1）目標値の設定について

- ・ 中間報告書でもXXとしていたが、人口などの目標値が設定されないままである。詳細な目標設定は創生本部で行うにしても、本委員会で大目標を設定し、提言した方がよいのではないか。
- ・ 目標を設定するにしても、何を指標とするかを議論する必要がある。人口であればわかりやすくインパクトがあるかもしれないが、産業を振興させるというビジョンの

趣旨を考えれば生産年齢人口（15～64歳）を指標とした方がよいのではないか。今後、死亡数が増加することは明らかであるが、生産年齢人口を指標とすることで目標の設定から自然増減による要因を概ね排除することができる。また、指標が詳細であった方が具体的な施策を検討しやすい。将来的に人口構成比率を変えていかなければならないし、生産年齢人口が増加すれば、年少人口（0～14歳）も自然と増えてくる。

- ・人口を指標とする場合、目標値を2万5千人や3万人とするという意見もあるが、理想と現実がかけ離れすぎてもならない。地域を維持・活性化させるためにそれほどの人口が必要であるかという議論もある。まずは出血を止めなければならないし、止血できなければ2万5千人も3万人もない。
- ・目標はいつまでにどの程度にするかを決めなければならないし、年度計画を設定しないと、目標値が絵空事になってしまう。そのためにも、統計資料などによって現状を分析する必要があるし、いろいろな意見も聞く必要があるのではないか。
- ・いずれにしても目標値を設定する方向で検討することとし、今回は継続審議とする。

（2）各アクションプランの可視化について

■ イメージ図（案）の作成について

- ・今後策定されるビジョンが文章だけとなってはわかりづらいので、それを補足するためにイラストを活用して可視化し、多くの人に円滑に伝達できるようにしたい。イラストの使い道や対象者によって描くべき範囲は異なるが、波及効果までをイラスト内に示さないと、趣旨を理解し味方となってくれる人は増えないのではないか。あまり細くなる必要はないが、参考としてアクションプランによる経済効果を数値で示した方がよい。
- ・ビジョンは産業振興のために策定するのであるから、各アクションプランによって、観光や農林業、環境や教育など各分野に効果が波及することを示すイラストが1枚あればよいのではないか。各アクションプランの具体的な手段の検討は執行機関に委ねればよいし、その都度状況は変化するわけであるから、現時点で固めすぎてもあまり意味がない。
- ・全てのアクションプランについてイラストを作成するのは困難であるので、各分野で優先順位が高いとされたものについてイラストを作成することとする。

■ 農業法人の設立について

- ・農業法人設立の大きな目的は、農地中間管理機構を活用した耕作放棄地の解消と、農業ベンチャーの誘致による人口増加である。彼らが農業に参入する際の敷居を低くすることが戦略であって、例えば農地や機械を無償で貸し出すとか、税金を免除するなどして農業に参入してもらい、全く新しいアイデアを開発・提供してもらおう。

- ・既存の農家やその後継者の方々にどのように関わってもらうかを検討する必要がある。もちろん連携を拒むものではないし、強制するものでもない。

■ 行政組織の見直しについて

- ・行政組織の見直しについては、行政側に先行して答申しないと4月の機構改革に間に合わなくなってしまう。
- ・大企業ではヒエラルキー型の組織が大きくなりすぎたために、文鎮型（フラット）にしようとの議論がなされてきたが、文鎮型で成功しているのは強烈なリーダーがいる組織である。役場組織をヒエラルキー型とする一番の目的は、横の連携を強化することであって、この規模でこれほどまでに横の連携ができていない組織も珍しい。
- ・ヒエラルキー型という大きな三角形をイメージしてしまいがちであるが、役場内に責任と権限を持ったコーポレートスタッフの機能が必要であるということ。部制にする必要はないし、優秀なスタッフを数名配置できればよい。リスクは想定されないし直ぐにでも実行すべきである。時代的な背景もあって、例えば観光を振興するにしても裾野が広く多くの分野にまたがるため、総合的にコーディネートする部署がないと対応できない。
- ・毎週行っている課長会議にしても、ただの連絡会となっているのではないか。先に議案を示しておき、事前に発言を用意させ、会議の場では議論を行うべきである。

■ シルバータウン構想について

- ・高齢者生きがい集合住宅の目的は雇用を創出することであるし、友好都市とアライアンスを組んで健常シニアを迎え入れたり、事業主体となる民間企業を誘致したりすることが戦略であるから、イメージ図（案）には強調して示せるとよい。
- ・健常シニアができるだけ要支援・介護とならないためのプログラムを提供することが新しい試みであるのだから、その後の介護や医療をどのように提供するかを含めて議論すると話が複雑になってしまう。まずは生きがいを持って地域で過ごしてもらうメニューを設定し、また別の事業で介護サービスを用意すればよいのではないか。
- ・また、都市部からの移住を前提に考えてしまうと現行法での対応が困難となってしまうため、フレキシブルに考えられれば良いのではないか。雇用が創出されたとしても、将来的な社会保障費の増大がそれを飲み込んでしまつては本末転倒である。

(3) 今後の委員会の進め方について

- ・年度内（3月末まで）にビジョンを答申する必要があるが、全体的なスケジュールを決めなければならない。今後は、ビジョンの答申を作成する作業と、執行機関と考え方を共有する作業が必要になる。答申案についてはこれまでの議論を踏まえて事務局で作成し、委員会においてレビューを行うこととする。

- ・ 11月に中間報告書を提出してから2か月が経過する。次回以降の委員会では、執行機関の各担当課（主に観光課と農政課）に出席いただき、今後どのようにビジョンを実現していこうとしているのか、また、これまでにどのような検討がなされてきたかなどを報告してもらい、考え方の共有を進めていきたい。
- ・ 各委員の推薦母体である商工会や農業委員会、議会などの理事や役員などを招集し、ビジョンの最終報告会を開催する。開催日時と場所は次のとおり。
日時：3月25日（水） 午後（時刻未定）
場所：カルチャーセンター ホール

3 次回委員会の開催について

- 次回の委員会について、次のとおり日時と場所が決まる。

日時：1月23日（金） 午後2時30分から

場所：役場本庁舎 6階 第2会議室

4 閉会